

『 私の被爆体験 』

牧里 三郎

今日、8月6日は 第63回目の原爆記念日であります。

西暦1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分、私もその時間、吉島本町にある軍需工場中国塗料の工場内の通路で（爆心地より1.6キロメートルの所で）被爆しました。

被爆者である私に原爆の実情を児童の皆さんに話して貰えませんか、と清水校長先生よりご相談を受けましたが、被爆後、私も1916年（大正5年1月）生まれの92才です。話の内容が若い児童の皆さんに理解して貰えるかどうか不安に思っております。聞きにくく思うようご期待に添えないかもわかりません。一生懸命頑張りますのでよろしくお聞きください。

低学年の1, 2年のみなさんには話がわかりにくいと思いますが最後まで聞いてください。

原子爆弾が投下された8月6日、私の体験についてお知らせします。

私は戦時中、吉島本町にある、軍需工場中国塗料（株）に勤務していましたが、事務所の一部が疎開していた南竹屋町の会社の上田重役さんの自宅でした。毎日そこで関係社員10数名だったと思います。朝礼、体操をすませたのち社員たちはそれぞれが各部所へ急ぎました。

私は吉島本町の本社工場に到着し、事務所に行くべく社内通路を歩いていた。その時です（8時15分）

一瞬、異様な光と風圧、熱風と同時の爆発音で建物は全部崩れ真っ暗になり、一寸先も見えない状態になり、私も地に伏せたまま、一瞬の静寂が過ぎ、周囲が明るくなるのを待ちました。

爆風で屋根のスレートが飛散し背中に次々と落ちてきましたが、そのたびにウンウンと苦しく痛いのを我慢したものです。その頃工場の建物は全部崩れています。

なんとも言えない悲鳴、助けを求める声、泣き声、大きなさけび声が聞こえましたがどうすることもできません。

動ける人は皆、血まみれで、崩れた工場内で助けを求めています。この有様こそ、この世の地獄です。時折、工場長・日野課長（元軍人で将校）が「皆、元気をだせ」「頑張れ」の大きなさけび声が痛々しく耳にしましたが、建物は全部崩壊し、火の手が上がった模様でした。

私も同僚の高田さんと二人で工場東の川土手の道路にひととき避難しました。

明るくなったので 周辺を見渡すと、川向こうの千田町方面の建物の屋根が全部崩れ無くなったようでした。あちらこちらから強く火の手が上り大火事になる様相でした。私共避難した川土手の電柱が周囲は火の気が無いのに勢いよく燃えだしてきました。

工場の南側の広い畠の芋の葉が全部しおれており、先程の光の熱が強いものか不思議でした。

目の届く千田町方面は各所から勢いよく火の手が上がり、これは大火災だと恐ろしく胸ががどきどきして止みません。

川土手の通路は建物が崩れたもの、電線、電話線が入り混じって道路をふさいで通行することが困難でしたが、これを必死にかき分け、少しでも広い避難場所を求め探し歩

きました。

住吉橋麓までようやく辿りつき、同僚の高田さん共に川岸の雁木を頼りにひとときの避難場所としました。

その頃西川向こうの川岸に繋留してあった筏の上に多くの人が避難されていましたが、近くの材木工場の大火災の焰が大きく舞い乍ら（竜巻状態）筏に襲い掛かりました。

私達が気がついた時には一人の姿も見えませんでした。あの大きな焰に飲みこまれ焼死されたか、水を求めて溺死されたか、あの状況ではどこへも逃げられなかったことと思ひ、でもよいからと無事を祈りました。

その頃です。満潮であった川も引き潮に変わったその時です。

あそこにも、ここにもと次々と亡くなられた方が、引き潮と共に次々と数え切れない多くの死体となって流れ、広い海の方へと消え行かれ、さぞ苦しかったことだろうと心から冥福を祈り、手を合わせ送りました。

陸の周辺では崩壊した建物がつぎつぎと大きな焰となって燃えて周囲はその熱風で苦しくなってきました。

（黒い雨）

その頃 西の空は異様な黒さに曇って、住吉橋あたりは夕立と思われる雨が降り出し暫くして止みましたが、その雨は黒く汚れたものでした。

それから時間が少し経ったと思われた頃には住吉橋東麓周辺には建物疎開、勤労奉仕に出動した多くの男女の中学生と大人も少々混じってみんな救いを求めて集められた方ばかりです。

男、女学生さんの服は焼け焦げ、皮ふは剥がれ焼きただれぶら下がっています。時間の経つにつれ 黒く変わり息もたえだえでした。

かすかに「お母さん」と呼ぶ声にとれました。

この子らのお父さん、お母さんに抱いて引き取ってほしかった。私自身も胸にこみ上げ「元気をだして」と言うばかり。

周辺の大炎も時間が経つにつれ下火となり亡くなられただろう避難場所に多くの被爆死された方々の冥福を祈りつつ、私を助けてくれた雁木の場所に別れを告げ「ありがとう」と。その日の次の行動に移りました。

被爆についてまだまだ沢山の話聞いてほしい事がありますが、時間の関係でまとまったお話しができませんこととお許しください。二度と被爆と云う戦争はあってはなりません。

小学校で平和学習もあると聞いております。

皆さんも一生懸命勉強して立派に成人されますことを、又、皆実小学校がこれからも立派な小学校でありますよう心からお祈りします。

今日は丁度63年前（昭和20年）8月6日は原爆投下の記念の日に当たります。被爆者の一人として生き残っている私の体験から原子爆弾投下で被爆のため多くの方々が苦しみ、実に悲惨であったかの一部をお知らせし被爆の話を終わります。

ご清聴戴きほんとにありがとうございました。

平成20年8月6日